

やまたらけ

DECEMBER

No.20

2006

YAMADARAKE

はやかわ

人のうごき (6月1日現在)	
人口	3,915 (+76)
(男)	1,858 (+37)
(女)	2,057 (+39)
世帯数	1,204 (+28)
定価	1冊 30円

発行/編集 早川町役場 総務課



部落から

おもな内容

- ことしの社会教育計画.....2・3ページ
- 参議院議員選挙.....4・5ページ
- みんなのページ.....6・7ページ
- グループめぐり・今月の料理.....8ページ

.....市場まで

ハナショウブが色あざやかに大きな花びらを広げ、夜来の雨を受けて頭を下げています。初夏の風は甘く、そこはかとなく若葉の香りを運んできます。町内で生産された農林産物の商品化をはかるために、農家が持ちよった山菜、野菜を各部落を1週間に1〜2回まわり、市場へ直送するために6月1日から町の農林産物輸送車がスタートしました。みなさんも現金収入を少しでも多くするために、ご利用ください。

■写真は、たけのこの集荷風景

庭先から市場まで 農林産物出荷輸送車の取り組み

「広報はやかわ」をめくっていると、ある記事に目を引かれた。「部落から.....市場まで」と題して、野良着姿の女性が三人、トラックにタケノコを積み込む姿をとらえた写真が大きく載っていた。昭和五十二年六月号の表紙を飾ったその記事には、「農家が持ちよった山菜、野菜を.....市場へ直送するために六月一日から町の農林産物輸送車がスタートしました。みなさんも現金収入を少しでも多くするために、ご利用下さい。」と書かれていた。

「町で直販みたいなことに取り組んでいたのか」

「早川のもうけばなし」をテーマに材料を探していた私は、情報を集めるうち、早川町の人々の基本的なありかたは、何かをあてて「儲ける」というよりも、しっかりと働いて「稼ぐ」方が主なのだ、それが二一世紀の今も変わらぬ姿勢なのだ、と思い至り、そうした地道なあり方にこそ、目を向けるべきだ、と考えていた。いやむしろ、早川町で暮らす人々には、地道なあり方しかなかったのかも知れない。でも、いい時代はあっただろうし、いい思い出もあつたはずだ。それを汲み取りたい。そんな思いのなかでこの記事に目が止まった。ずい分先進的なことに取り組んでいたのだな、との感想とともに。

ほぼ一年後の昭和五十二年三月号の広報に、「走り回った出荷輸送車」の題で、半年間の成果が紹介されていた。総売上げ四五〇万円、うち笹走が第一位の七〇万円を稼いでいた。次点の塩之上、千須和が三〇万円、と笹走が大きく引き離れた好成績をあげている。

「笹走で何があつたんだろう」

そんな疑問とともに、この出荷輸送車の意味を知りたくなった。

6.15

笹走の庭先が 市場に通じた

早川町の山がわずかに色づく頃、笹走の上杉次夫さん・春代さん夫妻を訪ねた。出荷輸送車のことはよく覚えているそうだ。産業開発課の人が四、五人交代で廻っていた、という。運転していたのはこの人、この人、と四人ばかりの名前がスラスラとあがった。車は一週間に一回、「今日は〇〇があるから」と電話すると、寄ってくれた。

「時期時期に、いろんなものを、何でも山の物を出した」

上杉さんは主にタケノコを出した。「ミイロに分けて」、つまり上中下の三級に仕分け、必ず四千口束に仕立てた。タケノコを出す家は他に三、四軒、他にミヨウガを沢山出す家や、枝豆を出す家もあった。

養蚕で稼ぎ、畑で喰う、冬の間は日雇仕事に出る、というのが生活の軸だった。昭和三五年に中富まで車道が通じてからも、作物を市場に売りに出すという形にはなかなかならなかった。

「山の上だから気もついてくれんし、こっちも知らんし」

自分で出せる車はない。時おりやってくる八百屋相手に庭先で賣目売りするくらいで、あまり買い物にも行けないからと物々交換で出すこともあった。そんなところに出荷輸送車が走り始めた。正式に走り始める一年前に、試験的に共同出

荷し、これまでの倍近い好成绩をあげた。そうした充分な見込みの元にスタートした。

「これ、お前だろ」

次夫さんが指さす写真に、試験販売でタケノコをトラックに積み込む女性がいた。春代さんだった。



農産物流通対策制度
これは、町内の農林業者が生産した農産物（シイタケ、ナメコ、クリ、お茶など）を町内の出荷組合・団体等に販売を委託し、価格の低落により販売できないときに、生産者に町が一時的に前渡金として無利子で貸与する制度です。なお、農林業振興部協議会を四月中旬から開発課で計画しておりますので、会場におでかけください。

■次夫さんが指を指した写真。広報はやかわ149号（昭和52年4月15日発行）に掲載されたもの。

市場に品物を送るようになって、仕事の仕方が変わった。まず規格を揃えることを始めた。タケノコは質をそろえて束にした。枝豆はネットに入れ、重さをそろえた。手間を掛ける分、夜なべ仕事が増え、忙しくなった。

出荷輸送車が出来て、いくらか暮らし向きに役立ったのだろうか。

上杉さんにとって、五〇年に一番下の息子さんが高校を卒業するまでが、本当に大変だったという。現金収入の意味はその時期の方が重かっただろう。残念ながら出荷輸送車は、その大変な時期の後の話である。でも、上杉さんは当時を振り返り、こう言った。

「タケノコの話でもちきりだったよ」

「何把出したか、競うのが楽しかった」
出せるときは七〇束も出した。地道に働

いて稼ぐのが一番、という気質がここにもうかがえる。楽しみ、その一言に救われる思いがする。

出荷輸送車は昭和五六年を最後に、市場への直送を止めた。特産物にも競争相手が現れ、値が下がりだした。過疎と高齢化が進んで、作物を出す人が段々と減った。

「今はみんな獣に喰われちゃう」

笹走でタケノコを掘る人は一人だけになった。上杉さんも、もう市場向けに作物を作ることは無いという。自家用に作るわずかな分も、獣害にやられてしまう。

「昔の者には、今のモノはダメだね、合わない」

息子の嫁さんから、お母さんは豆腐でもなんでも作れる、と感心された。でもね、作れないと食べられない。食べたいものは自分で作るしかない。買ったものとはどうしても味が違う。話しながらポツポツ



■お話を伺った上杉春江さん（81歳）。熱心に出荷に取り組んだ一人。笹走集落で夫の次男さんと暮らし続けている。

ツ枝豆をいただいた。粒の大きな、味のしっかりした実、塩を効かせた内にも甘みのある味わい、見事なものだった。「曙大豆よりもいい」と、町の人が口を揃えてほめる笹走の大豆も、いつか消えてゆくのだろうか。

もしまた、出荷輸送車が走り始めたら作物を出しますか。そう訊いてみたかった。だが、それはもっと若い人々が答えるべきだ、そう思い、敢えて尋ねることはしなかった。

こうして走り始めた

町独自の取り組みの始まりは何だったのか、当時役場にあって、出荷輸送車を担当した人に会いたい、と思い、昭和五二年時に開発課開発係長だった渡辺喜一さんにお話をうかがった。

出荷輸送車の発想は、昭和五〇年ごろ、町内の道路舗装がほぼ完成し、便の良くなった道路を使った企画を、役場内にあった開発調査室で研究したことから生まれた。

笹走のハチクには当初から注目していた。以前から、八百屋と物々交換しているとの話は聞いていた。特に魚と交換することが多いとも。

「ハチクで儲けられ、魚で儲けられてどうするんだ」

渡辺さんはこう言って地元を説得した。物々交換では、ハチクも魚も、どちらも値段に合わない取引きをしているのではないか。地元側では、買い物に不便な場

12/23

新そばと奈良田の天然水で 奈良田の里でそば打ち体験



そば打ちを極めた奈良田の里の食堂「こんぼうす」の料理人と一緒に、本格的なそば打ちを楽しみましょう。昼食には、打ち立てのそばと、奈良田に伝わる郷土料理が振る舞われます。もちろん、みなさんが打ったそばは、お持ち帰りしていただくことも可能です。

今回は特別に、休憩室も利用していただけます。そば打ちの後は、ゆっくりゆったりと温泉に入り、日頃の疲れを癒して下さい。

日時／平成18年12月23日(土) 午前10時～

集合場所／奈良田の里受付

参加費／大人3,000円、小人1,800円

材料費、昼食代、温泉入浴料付き

定員／15組(1組2名以上でお申し込み下さい)

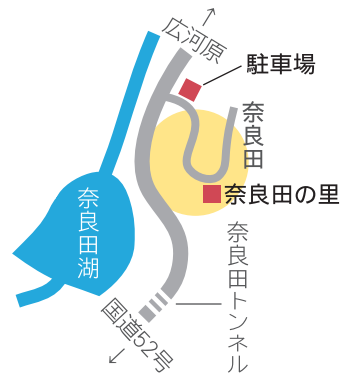
要申込、先着順、締切12月21日

備考／エプロン、タオルなど持参、汚れても良い格好でお越し下さい。

次回予告

平成19年2月13日 こんにゃくづくり体験!

奈良田の里体験教室シリーズ第二弾は、こんにゃくづくり体験。天然のしし汁も振る舞われる予定です。詳細は、奈良田の里へお問い合わせ下さい!



～申込先～

町営奈良田の里温泉

☎0556-48-2552

1/7

やまだらけツアー

塩島集落で小正月の柳飾りを作ろう!

早川町内では小正月に様々な行事が行われます。塩島集落では、毎年14日に道祖神祭りが行われ、7日には地元の人総出で準備を行います。

竹を割りそれに色紙を巻きつけ、その一端を長い幟竿に結び付け八方に垂らす。それを道祖神の前に立てると、いかにも柳の枝の様にみえるところから柳立てといわれます。作った柳を輪にして屋根に乗せておくと、火除けのまじないになるそうです。

また、郷土資料館にある秘密の民具を使い、早川町民の昔の生活の一端を体験していただきます。ぜひこの機会に伝統行事にご参加ください。

日時／平成19年1月7日(日) 9時～15時頃

集合場所／早川町郷土資料館(右地図参照)

参加費／大人1,000円、中学生以下500円 ※昼食代込み

備考／作業しやすく汚れても良い格好でお越し下さい。

屋外での作業となりますので、防寒対策もしっかりと。

定員／30名(要申込、締切12月28日)

～申込先～

やまだらけ編集部

☎0556-45-2160



2/4

野鳥公園主催自然観察シリーズ

厳冬の森を生きる

木の葉が落ちて、一見、何もなさそうな冬の野鳥公園。でも、足下や上空、また目の前の木々を見て下さい。樹上に群れる小鳥、獣のたちの足跡、冬越しをする虫たち、また芽吹き準備を進める木々など、冬だからこそ見えてくるものがたくさんあります。

厳しい冬を生き抜く動物たちの姿と知恵を、一緒に観察しましょう!

日時／平成19年2月4日(日) 10時～13時頃

集合場所／野鳥公園駐車場(右地図参照)

参加費／大人800円、小人500円 ※入園料込み

備考／防寒対策をお忘れなく。

定員／20名(要申込、締切1月29日)

ミヤマオホジロ



こんなものが見られるかもしれません!

エナガ、シジュカラなど小鳥の群れ/リス、イタチ、テンなどの姿や痕跡/イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカの姿や痕跡など

～申込先～

南アルプス県野鳥公園

☎0556-48-2288

「野鳥公園ブログ」、「早川北小学校わらべ日記」などなど 必見！早川町民が綴るブログが続々と立ち上がっています！



早川町のホームページをご覧になったことがありますか？

以前から、やまだらけ編集部では、早川町のホームページの中に「はやくわ日記」というブログを設けて、早川町の日々の様子をお伝えしてきました。しかし、この広い早川町を編集部だけで網羅するのは至難の業。もっと旬の話題をたくさん発信したいということで、ブログ立ち上げを町民に呼びかけたところ、大勢の協力者が名乗り出てくれました。

とりえず先月から、野鳥公園の村田さんが綴る「野鳥公園ブログ」と、早川北小学校の先生方が綴る「早川北小学校わらべ日記」がスタート。すでに閲覧者とのコミュニケーションも始まっています。

これまでよりさらに深く、そして様々な角度から早川の今を知ることができるようになりました。他のブログもこれから順次立ち上げていく予定ですので、お楽しみに！

早川町ホームページのここから見られます
URL <http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/>

芳醇な香りと濃厚な味 日本ミツバチが集めた「山蜜」

はちみつは貴重な天然の甘味品で、昔から薬用としても用いられ珍重されてきました。最近の自然食品、健康食品ブームの中、脚光を浴び見直されています。

特に玉屋養蜂場の山蜜は、早川町の赤沢を中心に周辺の山々で採蜜されたはちみつです。コクがあり栄養満点。うま味と共に舌触りもまろやかで、後味もすっきりしています。

自然の山々の花の香りを十分お楽しみいただける、編集部一押しの品です。ヨーグルト、パン、紅茶などとも相性抜群。上品でまろやかな味をご賞味ください。

料金／送料込み2,500円(送料別途500円)
内容／日本ミツバチが集めた蜂蜜250g
数量／20本限定
発送／12月中旬から申し込み順に発送します。

早川旬の直送便

20本限定です。
注文はお早めに！



クリスマスや贈答用にも最適！ 山葡萄ワイン恋紫と財団の特産品セット



山ぶどうとカベルネソービニオンを掛け合わせた「ヤマソービニオン」から、早川町特産「山葡萄ワイン恋紫」が生まれます。「恋紫」は深いルビー色と山ぶどう特有の酸味が特徴。また、こくがあるので肉料理とともに楽しめる本格的なワインです。

早川産ぶどう100%の安心感はもちろん、厳しい自然に育まれた貴重で爽やかな味わいを心ゆくまでお楽しみください。今回は、ご贈答用にも使えるハム、ソーセージなどとのセットもご用意いたしました。ぜひこの機会にご利用ください。

- ①新酒 恋紫2006 2,000円
発送は12月25日以降になりますので、ご了承ください。
 - ②フルセット 3,000円
恋紫2005(フルボトル)×1本
手造りロースハム×1パック
手造りウインナー×1パック
手造りベーコン×1パック
 - ③スタンダードセット 2,500円
恋紫2004(ハーフボトル)×1本
山葡萄ワインゼリー(5個入り)×1パック
手造りロースハム×1パック
手造りウインナー×1パック
 - ④プチセット 1,800円
恋紫2004(ハーフボトル)×1本
山葡萄ワインゼリー(5個入り)×1パック
- ※全ての商品に別途送料700円がかかります。

～上記商品に関する注文・お問い合わせ先～

やまだらけ編集部 ☎0556-45-2160 (商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振り込み下さい。)

草塩に天然ガスが噴出！

あの頃を振り返る

広報はやかわ164号より
(昭和53年7月15日発行)

昭和50年代、出荷輸送車とならんで活性化の起爆剤として期待されたのが、草塩集落内での温泉ボーリングとその最中に噴き出した天然ガス。専門機関からも、極めて良質なガスであるとお墨付きを頂き、町中が希望に胸をふくらませたそうです。

昭和54年5月に草塩温泉がオープン。天然ガスを利用して、20度の源泉を加熱する仕組みが取り入れられ、町内外から大勢の温泉客が訪れるようになりました。近隣では、民家を改装し民宿を始める方も現れ、草塩集落は温泉民宿村として賑わうようになったのでした。

期待しますガス開発

ガス開発のことを3人のか
たがたにおたずねしました。

わが家にも希望の赤ちゃんが生まれ、家のなかも一段とにぎやかです。昨年1年間に町内で生まれた子どもは26人だといわれています。4つの小学校に分けると入学児童は6人となります。

子どもの今後を思うと親として切実な問題であります。

町費で温泉がでた、ガスがでた、まさしく降ってわいたような幸運をぜひでも、町の人口流出の歯止めにはしたいです。各家庭への恩恵がさかるといっていいと思います。

たとえば、毎月ガス代が浮くだけでもありがたいです。



高住 望月 俊一さん



町発展の方途を構想する諸施策の一環として、草塩にボーリングが行われ、その結果、天然ガスの埋蔵が確認されたとの明るい報道に胸をふくらませております。

このガスをどのように開発し、水野く子さん 町財政および町民生活に生かすかは、その埋蔵量いかによると思っています。

採算のとれる利用計画のなかで、まず地元の燃料としてのパイプラインを、余裕があれば町内の他地区へも、そのときは部落ごとのガス供給センターのポンプから各家庭へ、また、もっとも多量なら有機化学など。

夢があることは楽しいですね。



過疎化の波は今やとどまることを知らないようです。

こんなときに天然ガスがでた...というニュースは暗い話題の多いなかで、明るい輝かしいニュースです。このガスが質量ともに希望の茂倉 茂倉 二さん 限りではありません。せっかくつかんだ大自然の恵みをたいせつに、みなさんにその恩恵がいきわたるような使いかたをしてほしいですね。たとえば、町営の設備として、家庭の炊事や暖房などに使用できるとしたら、なんとすばらしいことだろうか、また、ハウス栽培などに利用できたら、若者もとどり、理想郷としての町になることを期待します。

心ななつて、若石や水、ガスなどを採取し、どこのぐら埋蔵されているかを調査を行いました。

その結果、ガス成分分析結果、可採量、新規掘削地点などから見て、ガス成分はメタンガスが九〇近くを占め、熱質は都市ガス、プロパンガスの一・五倍から二倍に当たる九千倍で極めて良質なものと思われ、かなりの長期にわたって利用が可能とみなされ、と語っております。

長き約五日に及びます。

(一) 掘削で採取できる。(二) 今掘削中の井戸半井二五〇以内のガス可採量は約二十六万六千立方メートル。(三) 掘削採取量は約四万立方メートルに及ぶ。

今掘削中の井戸半井二五〇以内のガス可採量は約二十六万六千立方メートル。(三) 掘削採取量は約四万立方メートルに及ぶ。

温泉ガスの有効利用

町では、「工業用地」に指定した地区に、ガスが豊富に湧き出ていると、町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町では、「工業用地」に指定した地区に、ガスが豊富に湧き出ていると、町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

良田のおおくろ形などの地場産物を観光に結びつけ、宿泊施設の充実をはかるよう旅業や民泊の発展を促す、みなさんの暮らしの向上に積極的に努力します。

です。みなさんにも町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

ガスの調査分析



期待がもたらす天然ガス



温泉、ガスボーリング全景

昨年八月から調査で温泉ボーリングをした結果、八月中旬に突然、天然ガスの噴出が確認された。調査は、草塩温泉ボーリングの調査で、町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

町民の生活に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。

■NEXT やまだらけ

21号特集 (2月上旬お届け)

「山の民と狩猟」

早川の男たちの冬の楽しみといえば、狩猟。毎年、11月15日の解禁日には、仕事を休んで初猟に出かけるのが、早川の猟師たちの流儀。今年も、町内各地の山々に鉄砲の音が響き始めました。

次号は、早川の狩猟の基礎講座。早川での狩猟の歴史、獲物の種類や猟の方法、獲物の美味しい頂き方、そして早川の男たちの狩猟に賭ける熱い思いをお届けします。

編集部的には、取材にかこつけて、お相伴にあずかれるかどうか最大の関心事だったりして。お楽しみに！

■読者の声

●数年前に野鳥公園にうかがい、一時のやすらぎをいただきました。またうかがいたいと思っています。(匿名希望さん)

編集部:野鳥公園は、本当に気持ちのいい空間です。自然観察路も、季節ごとに様々な自然の営みを見せてくれるので、何度訪れても飽きることがありません。

●鳥の鳴き声で鳥の名前が分かるなんて、楽しいことですね。早川町出身の私ですが、残念なことにはウグイスぐらいです。田舎に帰った時には野鳥公園を訪ねたくてなりました。(柏市、Nさん)

編集部:観察会などで村田さんのガイドを何回も聞いているのですが、鳥の名前も鳴き声も、なかなか覚えられません…。村田さんの知識や

鳥の鳴き声を聞き分ける能力は、日々の訓練のたまものなのでしょう。まあ本人は訓練なんて感覚ではなく、ライフワークとして楽しみながらやっているのでしょうか。

●いつも美しいカラー印刷で楽しみですが、今号はとりわけ実物大でしょうか、鳥の羽が美しく、楽しく読みました。(甲府市、Iさん)

編集部:説明が足りずすみませんでした。羽の写真は迫力を重視して、はみ出しも気にせず実物大で掲載しました。おかげで載せられたのは、村田さんのコレクションのほんの一部です。もっと見たいという方は、ぜひ野鳥公園へ足を運んでください。ファイル数冊分にも及ぶ、村田さん自慢のコレクションが見られるかもしれません。

書き終えていくつか思うところがありました。今の「日本」では、山村は少数派、規格外存在になってきました。今回の話はそんな「日本」に向けた規格化、標準化への取り組みです。結果はご覧の通りでした。でも、規格外でいいと思います。普通に出来るものより「手に入ってうれしい」と言わしめるものになればいいじゃないか、早川の町のすべてがそうならいい、と思います。

山を覗けば宝の山
「やまだらけ」

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/